

てきたが、祭りに今年参加し、それが場合に
よっては男女の平等をおびやかすことになり
かねないということに気付かされた。
例えば、祭りの下準備で行われる力仕事に
参加する男子に対し、女子は主に室内で座っ
て行う手作業を中心に行われている。これま
で私は、男が力仕事、女が手先の作業をする
のが当然と考えてきた。しかし、私の周囲に
は力仕事が苦手な男子もいる。力仕事が苦手
な男子がいるということはその逆、手作業が
苦手な女子もいるだろう。つまり、必ずしも
男が力、女が手先のものが得意とは限らない
ということだ。当然のように作業の振り分け
がされるのは「男は力、女は手先」という差
別の一部「偏見」からきているのではないだ
ろうか。
また、祭りの日の昼頃から始まる、この祭
り一番の見せ場では、神輿を担いだまま神社
の神池に入り、それはもう勇壮な水しぶきを
あげながら池を一周するのだが、この神事に

は、決まり事がいくつかある。その中に「神事に神池に入水するのは、男子だけである」というものがある。現に祭りで神池に入るのは、中学男子と祭りの実行委員などの男性のみである。神池に入水する際には、女性はみんな神輿から手を離し、そこからは男性が主役となつて祭りを盛り上げるのである。私は今、この事例に複雑な感情を抱いている。この話はそれぞれの気持ちのもちようによつては、男女間の不平等となるだろう。しかし、この決まりは江戸時代から続いてきたもので、いふなれば祭りの伝統でもあるわけだ。つまり、この決まりを変える、または無くすことは祭りの伝統を傷つけることにもなりかねない。

私は苦悩した。伝統を守り受け継ごうとすると、歴史が深いため男女差別がどこかで多少しでも生まれてしまい誰かが不満になつたり全ての人が平等ではなくなつたりしてしまう。逆に、誰も不満にならず平等にしようとする

と	男	女	平	等	に	は	な	る	が	、	約	四	百	年	続	い	た	祭	り	
の	伝	統	や	今	ま	で	積	み	上	げ	て	き	た	も	の	が	一	部	崩	
れ	て	し	ま	う	だ	ろ	う	。	で	は	ど	う	し	た	ら	い	い	の	か	。
男	女	平	等	と	伝	統	の	保	存	。	お	そ	ら	く	こ	の	二	つ	で	
ど	ち	ら	の	方	が	大	切	、	ど	ち	ら	の	方	が	守	る	べ	き	も	
の	で	あ	る	か	、	答	え	を	出	す	の	は	大	変	難	し	い	こ	と	
だ	ろ	う	。																	
	悩	ん	だ	末	、	私	は	単	純	な	こ	と	に	気	付	い	た	。	ど	
ち	ら	か	を	選	択	す	る	こ	と	が	で	き	な	い	の	な	ら	ば	、	
ど	ち	ら	も	選	択	し	て	し	ま	え	ば	よ	い	の	で	は	な	い	か	。
つ	ま	り	、	伝	統	と	平	等	の	両	立	で	あ	る	。	江	戸	時	代	
か	ら	積	み	上	げ	ら	れ	て	き	た	伝	統	を	守	り	つ	つ	、	参	
加	す	る	方	々	の	希	望	に	は	で	き	る	だ	け	寄	り	添	い	、	
そ	の	都	度	少	し	ず	つ	変	え	て	ゆ	く	。	そ	う	す	れ	ば	、	
伝	統	を	守	り	な	が	ら	、	現	代	の	世	の	中	に	あ	っ	た	決	
ま	り	に	変	え	る	こ	と	が	で	き	る	。	こ	の	や	り	方	な	ら	
ば	伝	統	に	多	少	の	変	化	が	生	じ	て	し	ま	っ	て	も	、	そ	
れ	を	時	代	に	合	わ	せ	た	変	化	と	見	な	せ	ば	全	て	の	問	
題	が	解	決	す	る	で	あ	ろ	う	。										
	私	が	よ	く	見	る	テ	レ	ビ	番	組	で	主	人	公	は	、	「	人	

